

【調査内容】

横浜市立大学エクステンション講座 「事業仕分け 仕分け人講座」第2回（全2回）

行政の予算事業単位の仕事について、公開の場で、第三者による評価を行う。

事業説明、質疑応答、それらを踏まえた議論、仕分け、仕分けの根拠の提示といった作業を1事業

約30分で行うもの。仕分けは「税金で行うべき仕事かそうでないか」の、要・不要をまず判断し、

必要であれば事業主体は国すべきか、県すべきか、市すべき（内容そのまま継続・要改善）か

民間に任せるべきか、との分類で仕分ける。

前回講座より模擬仕分けにかかる時間を増やし、模擬仕分けの件数も増やしたことで、仕分け人

（評価者）を経験することと、事例研究の機会が増やされたものであった。

参加者は80名を越え、参加者の構成は市職員、地方議員で8割近く、他には財団法人など外郭団体

職員や政党事務局員、大学など学識者・研究者、NPOや市民団体の方、記者などメディア関連など。

模擬仕分けは10件、それぞれ説明者が自分の属する自治体の事業を選定して持ち寄る形であった。

仕分けの傍聴と模擬仕分けは今までに経験しており、説明者は今回以外できない経験であったため

私は大府市の国際交流教育推進事業の説明者として参加した。

事業説明をするにあたり、企画政策課と学校教育課に協力を要請し、引き受けていただいたことに

感謝するところである。議会で審査した予算のはずなのに説明ができないところがあり、不勉強を

自覚することにもなった。

【大府市への反映】

職員に協力を要請したことで、行政内部にこのような外部評価の手法についての認知が高まったと

考えている。協力のために時間などの負担を求めることから、事業選定も職員に一任したため、外部

評価を受けてみたい、外部評価に適するものは何かと考えるところから職員に求めたことも、仕事へ

の別な視点を持つための刺激となったのではないだろうか。

仕分けの結果は、要改善であるが基礎自治体で継続して行うべきとなった。要改善についてさまざま

な提案が評価者より出された。

音声データからテープ起こしした評価の記録と評価シートは、仕分けについての基礎的資料と合わせ

直接担当課に持参し、今後の事業展開について考える一助として使ってもらおう予定である。

（別紙、模擬仕分けの実践 の記録参照）